

◆あかし きよめの恵み

九州聖化交友会
イマヌエル綜合伝道団久留米教会牧師
岩上 祝 仁

クリスチャンホーム、しかも牧師家庭という環境で育った私にとって、恵みであった事は神と云う存在は当たり前前存在といううことでした。しかし、常に神に見られているということが恵みではなくて、束縛のように感じられ、放蕩息子の兄の息苦しいう毎日を送っていました。もちろん救いの恵みを受けて、永遠の命が与えられた喜びと主の為に何かをしたいという思いは与えられました。しかし、息苦しい信仰生活というイメージを拭う事ができませんでした。

その根底にあるのは私の罪であることは、痛いほど良く分かっています。ですから、きよめの恵みを求める心が与えられて行きました。高校三年に献身への思いが与えられ、大学四年で献身を決意して神学校に入學しました。すべてを捧げて、潔められたつもりになっていた自分がいました。そこには献身ときよめを誤解していた自分

がいたように思います。神学校の最終学年にあがる直前、その時に大きな問題が起きました。その問題の対処に当たりながら、自分をかわいがり、人を責め立てている醜い自分と直面せざるを得なくなりました。その根底にあったのは、汚れた自我でした。夜一人祈禱室に入つて主の前に汚れた罪人の私を潔めて下さいと祈りました。主の十字架の血潮を仰ぎつつ、どれ位祈ったでしょうか、祈りの中で、約束のみことばを求めていた時に、イザヤ6章6・7節が心に通つて来ました。「見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」とのみことばを頂き、きよめの信仰にしっかりと立つ事が許されました。

その時に与えられた心の平安と喜びは何にも代え難いものでした。その時から歩みは、日々深められて行きました。順調な直線ではなく、時には判断のミスや、誘惑などできよめの恵みから落ちた事もありました。その都度、主の十字架を仰ぎ、もう一度恵みに回復させて頂きました。

きよめの恵みに与り、神に対する考え方、恵みの理解が百八十度変わりました。あれほどまで堅苦しいと思っていたものが、これほどの自由と喜びを与え、ウエスレーがキリスト教はHoliness and Happinessと語った言葉の意味が良く分かるようになりました。

最近思わされる事は、きよめの恵みは信仰生活の土台だということです。そこから始まつて日々の歩みの中で、主との交わりによりこの恵みは深められて行きます。そして、罪に死んで、主イエスを生きて行く事に心を集中させて行く時、恵みの世界がいよいよ広がっています。もちろん、完全でも完成された訳ではありません。取るべき地は多く、戦いも限りがありませんが、主の愛と恵みの大きさに圧倒されるような毎日です。

ホーリネス経験の地上的意義

日本聖化協力会出版委員長
ウエスレアン・ホーリネス教団玉川キリスト中央教会牧師
本間 義 信



渡辺善太は、聖書の正典的神学的研究において業績を残した世界有数の神学者であり、聖書学者である。一九〇四年(明治三七)十一月五日、同郷同級の高橋範造に導かれて神田淡路町の福音伝道館を訪れた。何が何だかわからなかったが、彼の人生に光明のさし込むのを感じた。

毎晩福音伝道館に通い、日曜日の午後の聖別会にも出席するようになった。半年ほどたつて、明確な「救い」の経験を味わった。それは生涯不変に保持された確信であった。中田重治の説教は、聖書引用も適切で、例話の挿入も巧みで、明快で印象的だったと言う。当時彼は伝道館に入る前、ドアの所で、しばし祈つてから入った。「神ここにいます」印象だったと言う。今日もこれこそ必要な恵みではないか。

「このころに響くさんびか」の中で中村妙子さんが、「千歳の岩よ」(新聖歌二二九)について記している。ここで祖父植村正久の説教「キリストの十字架とわれらの十字架」に触れている。一九二四年十二月、この説教をしてから一月足らずで、植村は急逝するのである。説教は後半、トブレディの賛美歌を引用して進められる。「キリストの十字架によつて人間は罪から洗いきよめられる。「罪もけがれも洗いきよめよ」を直訳すると「何としてでも二重の癒しを受けた。罪の罪責から、またその力から、どうか私を潔めてください」となる。

罪赦された人は罪の責任を解除されて、自分のうちにはびこっている、その罪の絆をも解かれる。そうした二通りの救いをまっとうしてください。それがキリストの十字架である。」

第十四章に、預言の賜物は、人を造り上げ、励まし、慰める、とある。預言の賜物は、教会を造り上げるのである。この二つの章の間に愛(アガペ)を説く第十三章が入っている。教会に豊かに与えられた賜物を生かし育てて結びつけ、教会を建て上げる動力が愛(アガペ)即ちきよめられること、つまりホーリネス経験である。聖潔の地上的目標は、キリストの体なる教会の建設である。

第十四章に、預言の賜物は、人を造り上げ、励まし、慰める、とある。預言の賜物は、教会を造り上げるのである。この二つの章の間に愛(アガペ)を説く第十三章が入っている。教会に豊かに与えられた賜物を生かし育てて結びつけ、教会を建て上げる動力が愛(アガペ)即ちきよめられること、つまりホーリネス経験である。聖潔の地上的目標は、キリストの体なる教会の建設である。

★ 今秋開催の全国各地の聖化大会 ★

● 記念すべき第20回を迎える九州聖化大会

2009年
● 日時 10月27日(火)

● 会場 日本ナザレン教団熊本教会

● 講師 メシュラムカル博士

● 第9回岡山聖化大会

2009年
● 日時 10月25日(日)

● 会場 日本イエス・キリスト教団 岡南教会

● 講師 メシュラムカル博士

● 第57回ジョン・ウエスレーに学ぶ会

2009年
● 日時 10月23日(金)

● 会場 日本ナザレン教団 大阪桃谷教会

● 講師 メシュラムカル博士

● 第22回東海聖化大会

2009年
● 日時 10月22日(木)

● 会場 福音センター イマヌエル綜合伝道団名古屋教会

● 講師 メシュラムカル博士

● 第24回関東聖化大会

2009年
● 日時 10月18日(日)ー20日(火)

● 会場 ウエスレアン・ホーリネス教団淀橋教会

● 講師 メシュラムカル博士

● 第14回山形聖化大会

2009年
● 日時 11月3日(火)

● 会場 チャーチ・オブ・ゴッド 大江町教会

● 講師 岩本助成師
(日本フリーメソジスト教団西田伝道所)

● 第21回宮城聖化大会

2009年
● 日時 10月12日(月)

● 会場 日本基督教団仙台青葉荘教会

● 講師 本間義信師
(ウエスレアン・ホーリネス教団玉川キリスト中央教会)